

新しう「のざわいづも園」の 基本設計が完了

現在のこども園は昭和57年に建設、築40年を経過し老朽化が進んでいるとともに、2階建てであり災害時には速やかに避難をするための安全性が指摘されている等の課題を抱えています。子どもたちの「安全・安心の確保」を優先する必要があることから、令和3

年度に公募委員や地域代表を含むのざわこども園建設検討委員会を立ち上げ、今後の在り方を検討していただいた結果、新園舎の建設とともに求められる機能などが提言されました。

誰もが安全・安心に利用できるバリアフリー施設とするともに、こども達が元気な体づくりのできる野沢温泉村の自然や伝統文化を感じられる施設とする。そしてすべての子どもと子育て家庭の支援拠点となることを目的とする。

村ではこの提言を受けて新園舎の建設を決定し、令和4年度は事業用地の選定と買収、基本設計業務を進めてきました。

園建設に係る提言書の提言に対して、どのような園舎建設ができるのかを設計業者から提案説明を受け審査をする方式)で選定し、のざわこども園を設計するにあたり最も適する業者として「株式会社エーシーエ設計」(長野市)と契約しました。

提言書にあるように、野沢温泉学園の幼保小中が一体感を得られる位置で十分な面積を確保できる野沢温泉小学校グラウンドの南側としています。現在の小学校プールは解体し、その場所に園舎を建設して、周辺には園庭と駐車場を整備する計画です。

事業用地決定後、令和4年12月には基本設計業者をプロポーザル方式(のざわこども

園建設に係るのざわこども園建設に係る提言書に基づき次のとおりと

プールは解体しますが、新設はせず、野沢温泉スパリナを利用して小中学校の水泳授業が行えるように検討・調整中です。

【建設要旨】

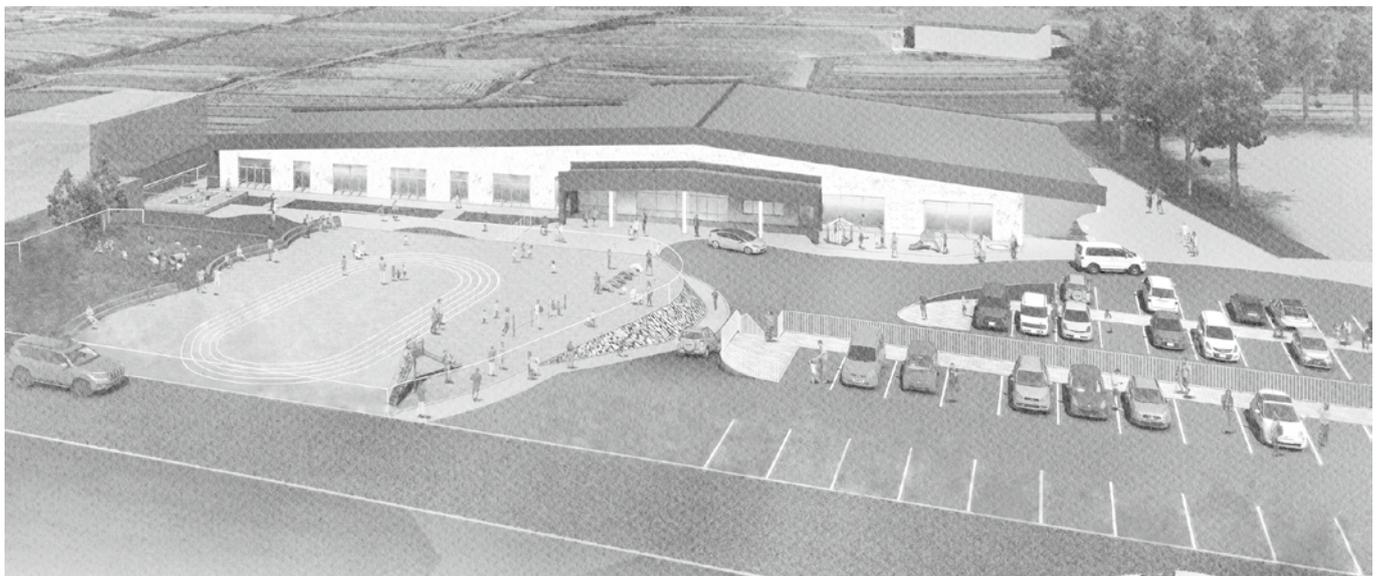
【ワークショップ】

【建設計画地】

事業用地決定後、令和4年12月には基本設計業者をプロポーザル方式(のざわこども

園建設に係るのざわこども園建設に係る提言書に基づき次のとおりと

プールは解体しますが、新設はせず、野沢温泉スパリナを利用して小中学校の水泳授業が行えるように検討・調整中です。



※新こども園のイメージ図

【新園舎の特徴と敷地の計画】

新園舎は野沢温泉学園の小学校と同じ「安心感のある大屋根」とすることで村の風景に調和するようなデザインを基本としています。建物は平屋とし南東に園庭を配置することで、陽当たり良好な明るい園舎を目指しました。園児はゆとりのある園庭から各保育室に直接アプローチできます。悪天候時は、屋根のあるメイン玄関から入り、土間を通り、各保育室へアプローチできる計画です。災害時には各保育室から直接避難することができ

ます。園舎中央に設けたホール・遊戯室は冬季にも室内でのびのびと遊べる広さを有しています。中心に位置することでコミュニケーションを取る交流エリアにもなります。保育室は未満児と3歳以上児のエリアを明確に分けることで生活時間や体格差に配慮した配置としています。その年の人数に応じてフレキシブルに使えるように、一部は間仕切りを可変できるつくりを計画しました。環境に配慮して園舎外壁に

は太陽光パネルを設置し、保育室には夜間電力を使った土壌蓄熱式の床暖房を採用予定です。夏場には夜間の涼しい風を建物内に取り込み、熱籠りを逃がすことで空調の負荷を軽減できるナイトパージも計画しています。更にバリアフリーに対応し、また、園舎から園児が飛び出さないように、そして外部からの進入が容易にできないように見守りカメラを設置しフェンス等で必要な場所を仕切ります。

園庭は敷地のだんだん地形を活かし様々なアクティビティをつくることで、好奇心に応じてカラダいっぱい遊ぶ広い園庭を計画しました。夏場の猛暑対策としての樹木、裸足で駆け回れる芝生の敷設など、子どもたちが元気に気持ちよく遊べる園庭としています。

園舎と園庭とのつながりとして、保育室前の土間・廊下空間は十分な広さを確保し、明るく温かみのある空間とすることで、子どもたちの遊び場が「なか」から「そと」へゆるやかに広がるのびのびとした保育環境を計画しています。

【建設スケジュール】

- R 5 年度：実施設計（詳細設計）
- R 5 年 5 月：村民説明会
- R 6 年～7 年度：建設工事
- R 8 年 4 月：開園予定

今後、令和5年度は実施設計（詳細設計）を行います。建設へ向けて住民のみなさんへの説明会等も開催する予定です。

【園舎建設概要】

- ・延床面積
1階部分
1682・80㎡
屋内駐車
515・6㎡
- ・定員
132人
- ・構造
RC造平屋建て
- ・駐車場
屋外 54 台
屋内 12 台



※新しいこども園は、小学校グラウンド南側に建設予定